GeoCoach3D（DM 三次元エディタ）

GeoCoach3D（ジオ・コーチ・スリーディ）は DM データファイルの 3 次元エディタです

（1）２つのプロセスを実装

ＤＭデータファイル作成でのストレスとコスト削減のポイントは２つのプロセスです。

- **［一括処理-リストアップ-確認］**
- **［チェック-リストアップ-確認-修正］**

あなたは、次のことを明確に区別されていますか？

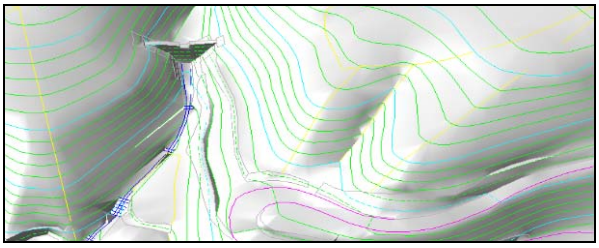
- **一括で処理できること**
- **ひとつひとつやらなければならないこと**

一括でできることを一括で実行すれば、コストが下がることは当然です。ミスも入りにくくなり、ストレス削減にもなります。どれだけ一括処理が実現していますか？細心の注意を払って作業されているからこそ、疲労が蓄積し、ミスを誘発してしまいます。**ミスが出て当然**と考えるべきです。ポイントは、ミスをいかに早く確実に検出し、その場ですばやく修正できるか、です。

（2）［一括処理-リストアップ-確認］プロセス

三次元要素の交差部分の標高値をあわせたり、要素が接合する所でノードを発生させたりします。要素内の点の重複の削除、要素間の重複の削除。また、CAD 系のから DM への変換での数値の丸めによるズレを修正することなどです。

一括処理後、変更した要素をリストアップし、変更点を３Ｄ表示するので、変更点の数や分布など一目で確認できます。リストの項目を選択することで、該当する箇所を画面中央に表示し、**３Ｄ表示で確認**できます。一括処理の場合、しっかり確認できることは絶対必要です。

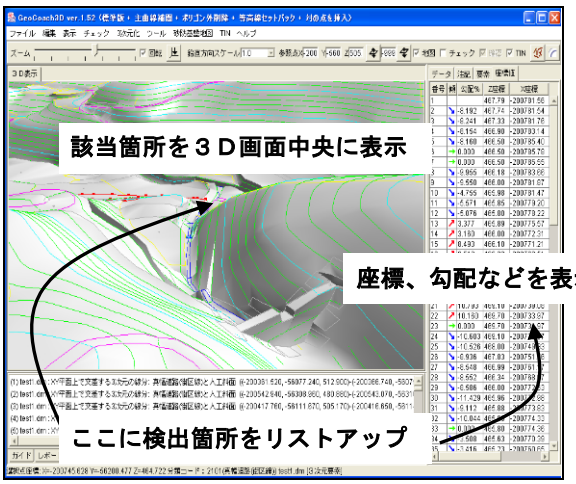


３Ｄゲームと同様、ハードウェアの３Ｄエンジンを使い、スムーズな回転・ズーム・スクロールで確認できます。

（3）［チェック-リストアップ-確認-修正］プロセス

ソフトウェアで検出できるミスはソフトウェでやるべきです。その場で確認し、修正する機能も連動しなければなりません。そうしてはじめて、安心して作業ができ、ストレスも小さくなります。検査と修正の時間が短くなり、トータルコストも下がります。

多種多様なミス入力箇所が自動でリストアップされて、該当箇所を３Ｄ表示と座標属性などの表示で確認し、修正メニューも提示されるなら、どれほどのメリットがあるでしょうか？砂防新法や測量技術センター検定の対応、具体的には、標高値の矛盾や線の交差など、問題箇所を**リストアップ**します。項目を選択すれば、該当箇所を画面中央に表示し、状況が**３Ｄで**確認できます。

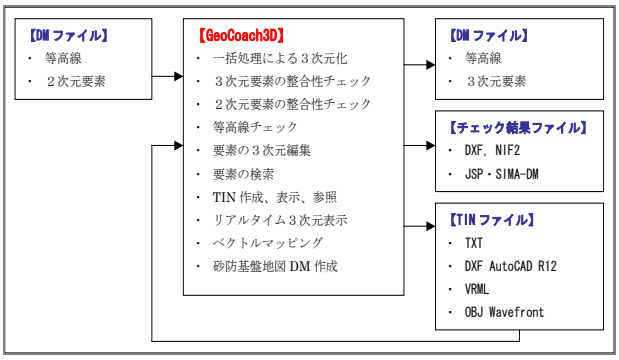


（4）３Ｄによる確認

３次元の要素の確認には３Ｄ表示は必要不可欠です。３次元要素から TIN を発生し、重ねて表示するので、標高値がおかしい箇所を目視でも発見できます。確認したい地物をダブルクリックすれば、それを中心に視点の回転やズームなどができるなど、見たい地物に注目できる表示操作になっています。重なった要素を識別するため、選択されている要素を一時的にＺ値を変えて表示するなど３Ｄ表示でなければ不可能な確認方法も提供しています。

（5）連携

GeoCoach3D はＤＭデータファイルをリードし、ＤＭデータファイルを出力します。ＤＭが持っている情報を生かした編集機能を提供しています。また、問題箇所は DXF などのファイルで出力するなど、既に稼動しているアプリケーションとの連携して、システム全体でより効率的なＤＭデータファイル作成を支援します。



有限会社ジオ・コーチ・システムズ

〒730-0042 広島市中区国泰寺町一丁目８番１４号 ＳＯＨＯ国泰寺倶楽部３０７号室 TEL/FAX 082-552-7602

E-mail info@geocoach.co.jp URL http://www.geocoach.co.jp/